

令和5年度 第1回 学校運営協議会 会議録（要点記録）

1. 開催日時 令和5年6月12日（月） 14時00分から15時30分まで
2. 開催場所 浜松市立浜北北部中学校 特別活動室
3. 出席委員 山本忠雄 池谷真也 和田安彦 矢野陵子 鈴木貴子
室内恵理香（学校支援CD）
4. 欠席委員 なし
5. オブザーバー 細川 恭由（中瀬協働センター）
6. 学校支援コーディネーター（委員外） 岡本奈緒（兼CSディレクター）
7. 学 校 影山ちか（校長） 松島 歩（教頭） 石島正巳（CS担当教員）
青木雅俊（生徒指導主事）
8. 教育委員会 堀田洋一（教育総務課）
9. 傍 聴 者 なし
10. 会議録作成者 CSディレクター 岡本奈緒
11. 議長の選出

司会より議長を会長にお願いしたい旨を伝え、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

12. 協議事項

- (1) 学校運営の基本方針について
- (2) いじめ防止等のための基本的な方針について
- (3) 学校の取り組み（校則見直し、制服変更）
- (4) 協議会の取り組み（職場体験、夏休み宿題ボランティア）
- (5) 夢育やらまいか事業に対する意見書について

13. 会議記録

司会の教頭より、委員総数6名のうち6名の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 今年度の学校運営基本方針について

校長より、別紙資料に基づき説明があり、委員全員で再確認した。

(2) いじめ防止等のための基本的な方針について

(3) 学校の取り組み（校則の見直し、制服の変更）

(2)(3)について生徒指導主事より別紙資料に基づき説明があり委員からは以下の発言があった。

矢野委員：生徒指導委員会のメンバーは、資料にも記載されているが、学級担任・教科担任等、いじめた側・いじめられた側も両方含めてという理解で良いか。

生徒指導：その通りです。

校長：いじめが発覚するとすぐに集まり、委員会を待たずに早く共有するようにしている。

和田委員：1年間のいじめ件数は何件くらいか。

生徒指導：昨年、本校では13件。

和田委員：その件数全てがいじめた側にいじめの認識はなく、簡単なからかい・スキンシップのつもりで言ったことが発端になっているということでしょうか。

校長：SNSやInstagram等、学校外のことも含めると多いかもしれない。生徒指導委員会では3ヶ月ごとに、時系列を追って経過観察をしている。

生徒指導：仲のいい友達同士でからかいのつもりで言っていたことが、実はその子にとっては傷ついていた、言った側にとっては「え、いつも言っていたのに」ということがある。教員側としては言われた側が嫌なこととを感じる時点で「気を付けよう」と指導をしている。InstagramやSNS等、捉え方は人それぞれ違い、誤解が生じていることも多々あり、学校

に行きたくなくなるという事象もある。これを伝えたら相手がどう思うか、相手の気持ちをしっかり理解する必要があるということをお子たちに教えてあげたい。

矢野委員：是枝監督の「怪物」という映画を見た。いじめがネタ。わが子がいじめられていると思って見ているが、それぞれの立場で言い分・思い・分析がある中、子ども達の世界の中では全く違うストーリーが実は起こっている。それは大人が思う「いじめ」のストーリーではない子ども達がかかえている「いじめ」。大人が影響を与えているストーリーもある。いじめの理解は誰がどこで「いじめ」だと言い出すか、言われた内容でストーリーを作ろうと思えばどのようにもできてしまう。逆に深刻なものでもただ疲れただけじゃないかとストーリーを変えてしまうこともできる。成長の中の一部の子どもたちのやり取りであることもあり、そうしてはいけない時もあるだろう。対応力・読み取る力が試されるころだと感じた。

校長：だからこそ共有する必要がある。担任によつての捉え方と部活で見せる顔等、週1回の生徒指導委員会で共有することをこれからも大切にしていきたい。

矢野委員：1つの見方で見始めてしまうとそつちで見えてしまう、そう思って見ていたけどこんなすごいことあったよ、と勇気をもって言えるような生徒指導委員会が開かれることを願う。

山本会長：先生方大変であるが立ち向かっていただいて、13件よりも増えない、ゼロを目指して頑張っていたきたい。

池谷委員：年間活動計画の中でローテーション道徳は何を狙い、どのような効果が表れているか。また、特別支援学校の生徒との交流は1年生限定か、どのような内容なのか。

生徒指導：ローテーション道徳は、それぞれの先生が特色・カラーを生かした内容で授業を行うもの。担任の先生の授業だけではなく学年の先生が色々なクラスの生徒と関わりをもち、それぞれの先生の思いを子どもたちが理解した上で生徒にとって必要な道徳力を学年の職員で連携を取りながらやっていけることが効果であると思っている。

石島：特別支援学校との交流は、1年生の総合学習の中で「関わり」という大きなタイトルを掲げ、誰でも幸せな暮らしができる、という「福祉」について厚生会の方から高齢者と障害をもつ方に関する福祉について教えてもらい学習を進めている。時間的にもゆとりのある1年生の段階で特別支援学校との交流を進めている。

校長：過去には、運動会などに招待したこともあった。コロナによりリモート交流になった。学級紹介の中で、リモートでじゃんけんをしたりクイズをしたりしている。

石島：今年は合唱での交流も検討している。

池谷委員：制服の見直しについて、どういった経緯で案が出てきたのか知りたい。

校長：3つのねらいがある。衛生面から家で洗える・価格をおさえて経済的な負担を軽減する、個人で選択できる多様性。地元の業者にも話をし、昨年度業者選択をした。PTA、職員に対し、4社からのプレゼンを受け決定した。生徒・保護者にメールで配信し、みんなで選択してもらう予定。浜松市内でも制服変更を検討している学校が増えてきている。

矢野委員：校則の見直しの話は大変面白く、いいテーマ。物事を変える時に時間も手間もかかるが、諦めずに取り組み続けるのは面白い体験。しっかり考えて意見を出し合って時間がかかる体験になればよいと思う。生徒会の子たちは先生との話し合いがあるだろうが、その他の生徒たちは先生方からのルールとマナーの話を聞く機会があるのか、話し合った結果だけ先行していないか。どんな意味があるのか等、先生の思いを知らずに過ぎ去ってしまうのはもったいない。急がず丁寧に先生たちの思い、大人の思い・子供たちの思いを聞きながらやっていただけたら素敵だと思う。

校長：化粧も個性だからいいじゃないかという意見も出ている。とにかく皆で話すことが大切。

生徒指導：一つ意見を聞かせて頂きたい。子供たちは化粧を個性だという。学校側としては、中学校に化粧の必要はない。個性も大事だが、化粧道具は誰か買うのか？中学生は、まだ家の人に養ってもらっている段階だ。お金がかかることは大人になり自分で稼いだお金で購入し、

身なりを整えて社会に出ていけばよい、という理由は子どもたちは理解できるだろうか。

矢野委員：子どもたちは納得しないのではないか。携帯や通信機器、ブランド品のかばんのお金は出してくれるのに何故100均の化粧品は出してくれないのかと思うだろう。

室内委員：これは家庭の中の問題ではないか。親の問題。

矢野委員：ただ、学校に化粧をしてくるということは別。

生徒指導：学校は勉強をする場所。化粧でお洒落をする必要はないと伝えるが、化粧をしても勉強の邪魔にはならないという。子供たちに考えてもらいたいことは、学校生活を送るうえで必要なルール、生徒会では「学習に集中できる」「生活しやすい」という目的がある。そこにそった内容で、ルール・マナーを作ることを伝えている。

山本会長：制服に関してはPTA・学校・生徒を中心に考えてもらいたい。

(4)協議会の取り組みについて（職場体験、夏休み宿題ボランティア）

時間の都合により、熟議なし

石島：職場体験について学区管内での体験先紹介、受け入れ可否のアポ取り、人数確保までのお力をお借りしたい。

また、夏休み明けに宿題が終わらず学校に行きたくないという子供を救うため、宿題ボランティアの募集を募りたいと考えている。ご協力を賜りたい。

そして、今年度は対象学年を増やし、書写・裁縫ボランティアの準備を進めている。調理実習などボランティアに来ていただけるお知り合いがいらしたらご紹介いただきたい。

教頭より、夢育やらまいか事業に対する意見書について説明し会を閉じた。